

胃がんリスク検査の導入について

導入目的(平成28年10月から実施)

がん検診受診の誘因効果、健康寿命の延伸のために導入

胃がんリスク検査(ABC分類) 導入の意義

- ①世界保健機関(WHO)の専門組織である国際がん研究機関は、胃がんの8割がヘリコバクター・ピロリ菌の感染が原因で、除菌で胃がんの発症を3～4割減らせるとの報告書を発表し、国内事情に応じて、除菌による胃がん予防対策を検討するよう各国に求めている。
- ②胃がんのリスク要因としては、高塩食品の摂取や喫煙等のライフスタイルやヘリコバクター・ピロリの感染等、環境要因の関わりが大きいと考えられている。(厚生労働省 中間報告書より)
- ③平成27年の厚生労働省の調査によると、全国で約6.0%の市区町村がヘリコバクター・ピロリ抗体検査及びペプシノゲン検査を実施している。(H27導入自治体 政令指定都市:20市中0市、府内自治体43市町村中12市町(ピロリ菌単独検査を含む))
- ④40歳からのリスク検査の実施は、将来の胃がんリスクが判明することによる、予防のための動機付けの意味と除菌治療によって胃がんを予防することが目的であり、胃がん検診受診のきっかけともなり受診率の向上に寄与するものである。(H26堺市の胃がん検診受診率3.6% リスク検査を実施している府内自治体の胃がん検診受診率 平均4.5%)

40、45、50、55、60歳の方へ血液検査を実施

ピロリ菌感染
の有無



胃粘膜の萎縮
の程度を
測定



将来の
胃がんリスク
を判定

